友好協力提携40周年記念 公式訪問報告

淡路市×パラナグア市
友好の絆と未来への実践的交流

親善交流の節目を超え、経済・環境・福祉・教育・交通の社会課題解決へ

訪問期間：2026年7月6日（月）～ 7月12日（日）

ブラジル・パラナ州パラナグア市

報告：淡路市友好親善使節団

訪問の背景・目的と公式使節団

訪問の背景と目的

提携40周年と創設378周年の節目：
昭和61年、「アジア・ポート構想」の流れの中、旧津名町とブラジル・パラナグア市の友好協力協定が締結される。平成17年の淡路市発足以降も提携を継続し、友好都市提携40周年を祝うため、同市の創設378周年記念に合わせて公式訪問を実施。

実践的アプローチへの進化：
従来の親善交流にとどまらず、両市が共通して抱える社会課題（経済・環境・福祉・教育・交通等）に対し、相互に学び合う実践的交流の構築を目指す。

公式使節団 名簿

戸田 敦大 （淡路市長）	団長
岨下 博史 （淡路市議会議長）	副団長
高濱 健治 （秘書広報課主幹）	団員
高橋 未来 （秘書広報課主事）	団員

訪問の主要行程（2026年7月6日～12日）

7月6日～7日

日本出発～到着

日本を出発し、ニューヨーク、サンパウロを経由し、ブラジル・パラナ州パラナグア市へ到着。現地受入態勢の確認と事前協議を実施。

7月8日

記念式典・行政会談・訪問

●友好協定40周年記念式典

ハモス市長ら市幹部等との公式会談。

日本広場で桜植樹式。

●市議会訪問

●タケシ・オオイシ学校訪問

7月9日

訪問・視察

●カッタリーニ社視察訪問

●パラナ港視察

●アリーナ・アルベルティーナ・サーモン視察

●鉄道駅見学

無形文化遺産ダンス交流。

7月10日

視察・記念植樹・福祉視察

●植物園クリチバ庭園見学

●URBSバス会社視察訪問

持続可能な都市交通モデル。

●商工会議所訪問

7月11日～12日

帰国～報告

公式日程を終了。

パラナグア市を出発し、サンパウロ、ニューヨークを経由し、無事帰国。

９月24日　報告会を実施。

SECTION 01

訪問の意義と主要な交流

友好都市交流・日系社会・教育・草の根文化交流の4つの軸

40周年記念式典・行政間対話の推進

40周年記念式典
市中枢とのトップ公式会談：
40周年の記念式典では、アドリアーノ・ハモス市長から「市民生活の質に直結する分野（治安、教育、交通、、雇用創出など）が重要な発展の時期を迎えている今年、世代を超えて続く姉妹都市関係を再確認することは大変意義深いものであり、将来に向け広い協力体制を構築していく」と発言があり、戸田市長も「親善訪問団としてパラナグアを訪問できることを大変嬉しく思う。友好協力協定に署名してから40年が経過した今、文化、経済、行政の各分野で強固な関係を維持し、相互に尊重する中、交流を強化し続けていく。」と答えました。

会談では、アドリアーノ・ハモス市長、ファビアナ・パロ副市長をはじめ、経済発展局長、農業漁業局長ら市政の中枢幹部と会談を行いました。
環境保全や農水産業分野における日本の先進技術の導入など、具体的な課題解決に向けた技術交流に前向きな意見交換が交わされました。

ブラジル・パラナグア市
ブラジル南部のパラナ州東部に位置する港湾都市であり、ブラジル有数の貿易港（パラナグア港）を擁する。
パラナ州全体が日本からの移民と深い関わりを持ち、旧津名町とは1986年に友好都市提携を結んでいる。
人口：14.6万人　面積：約823km^2





草の根文化交流と次世代教育

桜の植樹式と無形文化遺産での交流：
淡路市とパラナグア市、両市の友好協力協定40周年の祝賀に加え、未来の世代に向けた両市の結びつきの強化を記念し、桜の植樹式を「日本広場」で執り行いました。
また、鉄道駅において、伝統無形文化遺産「ファンダンゴ・カイサラ」の踊りに代表団も参加し、市民レベルでの親睦を深めました。



「タケシ・オオイシ全日制市立学校」の視察訪問：
両市友好の象徴である同校を訪問しました。
絵画展を観覧したほか、タケシ・オオイシ市立学校および市立乳幼児教育センター（CMEI）の施設を視察し、教育現場で展開されている各種プロジェクトや活動内容についての説明を受けました。
今回の訪問では、両市間の強力な協力ツールとしての教育の重要性を再確認するものとなりました。
また、市予算による屋根・電気系統の大規模修繕完了を確認するとともに、児童による空手・バレエ披露や記念作文に教育の成果を実感しました。



日系社会への感謝と絆の再確認：
長年両国の架け橋として多大な貢献を続けてきた現地日系人コミュニティを訪問。世界最大規模の日系社会が両国関係の揺るぎない基盤であることを再確認しました。

SECTION 02

視察を通じた主要な知見

インフラ・産業・福祉・交通分野に見るパラナグア市の先進取り組み

経済・インフラと「道の駅」モデル

パラナ港・カタリーニ社（液体バルクターミナル）：
カタリーニ社は、パラナグア港（ブラジル・パラナ州）に拠点を置く、ブラジル最大級の独立系液体大口（バルク）貨物専門の港湾ターミナル運営企業。
バイオエタノール精製が進み、2040年には日本へのクリーンエネルギー輸出を計画。脱炭素社会に向けたダイナミックな取組を行っています。

「ポント・パラナ」プロジェクト（2027年5月1号店）：
ブラジルのパラナ州政府は、日本の「道の駅」の仕組みをモデルにして地域振興・道路沿道整備プロジェクトを推進しています。
州内各地に拠点整備を進めており、ドライバーの利便性を向上だけでなく、地元農家や小規模事業者が生産した特産品・アグロツーリズム商品を販売するプラットフォームとして機能させることで、地域経済の活性化と農家所得の向上を図っています。
兵庫県との交流を契機に発足した20ha規模の拠点であり、道の駅あわじの影響を受けています。

淡路市との理念共有：
淡路市が掲げる「地産地消」、「一次産業支援」の施策と強く共鳴する取り組みです。





高齢者福祉・公共交通の先進施策

高齢者福祉「AMS+」と生きがい創出：
非営利団体が運営する高齢者の生活の質向上と健康増進を目的とした地域社会福祉・健康増進プロジェクトであり、正式名称は「AMS+ (Atividade e Movimento com Saúde — Qualidade de Vida na Terceira Idade)」（健康的な活動と運動 — シニア世代のクオリティ・オブ・ライフ）と呼ばれています。
60歳以上を対象に無料の健康体操やアダプテッド・ハンドボール、老人大学（UNAPI）合唱団を展開しており、能動的な社会参加を促す手法は淡路市の高齢者健康づくりと深く共鳴します。

先進的なバスシステムと市民向けバス全額無償化政策：
ブラジル・パラナ州の州都クリチバでは、ＵＲＢＳ社（公社・半官半民の第三セクター）が世界的に有名な基幹バス（BRT）網をはじめとする公共交通システムや都市インフラを管理・運用しており、市行政の傘下で公共交通システム全体の企画・統括・運用監視を担う行政機関的な役割を果たしています。
連結バス、チューブ型バス停留所、統一料金システムや交通カードなど、持続可能な都市交通モデルとして注目されています。
また、運行事業費を市が100%負担し、全車両を最新式（Wi-Fi・非接触認証対応）へ刷新するなど、行政における公共交通の優先度の高さを象徴しています。





主要視察分野と淡路市への示唆まとめ

視察分野	パラナグア市の主な取り組み	淡路市への示唆・対比
経済・インフラ・エネルギー	パラナ港・カタリーニ社。バイオエタノール精製、2040年クリーンエネルギー対日輸出計画。	脱炭素社会に向けたエネルギー戦略・港湾物流推進の参考。
地域振興（道の駅）	20ha規模「ポント・パラナ」（2027年5月開校）。小規模農家支援と特産品高付加価値化。	淡路市が掲げる「地産地消」「一次産業支援」と強く理念を共有。
高齢者福祉・生きがい	「AMS+」にて60歳以上へ無料体操・スポーツ提供。老人大学（UNAPI）での能動的参加。	高齢者の健康づくりと社会参画・生きがい創出の先進モデル。
公教育と多様性	「タケシ・オオイシ学校」への重点予算配分（環境近代化）と異文化理解カリキュラム。	多様化する未来社会を生き抜く子どもたちの育成に向けた要素。
公共交通政策	市民向けバス全額無償化（市100%負担）。Wi-Fi・非接触認証対応の最新車両導入。	地域の移動権確保における行政優先度・財源投入のあり方を提示。

40周年の節目から未来への共創へ

技術・行政交流の実践

環境保全や一次産業・港湾技術など、両市の強みを活かした具体的かつ実効性のある技術連携を推進します。

青少年の相互理解深化

「タケシ・オオイシ学校」をはじめとする教育連携を通じ、次世代を担う子どもたちの異文化理解と国際感覚を育みます。

地域課題解決への反映

福祉（AMS+）や道の駅モデル、地域交通など、今回の視察成果を淡路市の市政・地域活性化施策へ積極的に活かします。

ご清聴ありがとうございました

淡路市×パラナグア市 友好協力提携40周年記念 公式訪問報告

淡路市役所 秘書広報課　0799-64-2501　www.city.awaji.lg.jp